

2013研修分科会通信

2013年11月7日

私立大学図書館協会
東地区研究部
第5期研修分科会
開催のご案内

第5回

早稲田大学

18号館総合学術情報
センター内
中央図書館1階会議室



第4回 図書館の自由を考える 2013.9.26 東京都市大学図書館にて

Resource Discription and Access : RDAを通して目録の世界をみてみましょう

By 大学図書館支援機構(IAAL) 高野

第2回の研修分科会の課題（アウトソーシング調査）の結果では、会員の所属する図書館では、目録の従事者は専任と委託・派遣の割合が約半数でした。皆さんの中には目録業務の経験がない方も多いようですが、今回は大きく変わろうとしている図書館の目録の世界をみてみようと思います。

図書館の仕事はいわば、利用者と資料を繋げる架け橋です。求める資料を利用者に的確に提供するために、目録の知識は図書館員にとって不可欠です。資料ひとつひとつを整理して、利

用者の求めに応じていつでも提供できるようにしておくのが目録の仕事です。従って、その目録には「発見」「識別」「選択」「入手」の機能が必要です。このことが、IFLA: 国際図書館協会でFRBR (Functional Requirements for Bibliographic Records. 1998, 2009) としてまとめられた中に書かれています。そして、インターネットの時代に図書館の目録は見直されようとしています。

『英米目録規則 第2版』AACR2は、第3版に改訂されるのではなく、RDAになりました。すでにLC: 米国議会図

書館や、BL: 大英図書館はじめ、独、仏、加、豪のNational Libraryで、2013年第2四半期から実際にRDA準拠の目録が作られており、スペイン語、中国語への翻訳も始まったようです。一方『日本目録規則』も国立国会図書館と日本図書館協会目録委員会が、RDAに対応した目録規則を共同で作成するという声明を9月30日に発表しました。

さて、そのRDAにはどのような考え方が書かれているのでしょうか。また、世界の図書館の動向も是非知っておきたいですね。

第5回会場案内

- JR山手線・西武新宿線／高田馬場駅 下車徒歩20分 → 高田馬場駅一早大正門 学バスあり
- 東京メトロ東西線／早稲田駅
- 都電荒川線／早稲田駅

キャンパス案内URL : <http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

中央図書館へのアクセス : <http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/access.html#CLIB>

1階の職員用出入口からお入りになり、右手にある防災センターへ「研修分科会」参加とお名前をお伝えください。参加者リストを提出しておきます。館内では名札を着用してください。（利用者入口ではないのでご注意ください。）

IAAL事務局連絡先

170-0004豊島区北大塚1-19-12 6F TEL: 03-5961-3401 FAX: 03-5944-5087

IAAL緊急連絡先（携帯番号）090-9100-0387

講演1

RDAにみるこれからの
図書館像

講演：蟹瀬 智弘氏

(NPO法人 大学図書館支援機構)

論文：

- ・所蔵目録からアクセスツールへ、『情報管理』vol. 62, no. 2, 2013
- ・RDA概説、『薬学図書館』vol. 58, no. 3, 2013
- ・大学図書館とRDA、『図書館雑誌』Vol. 107, no. 9, 2013.9

今回は2人の方に講演をお願いしています。最近発表された論文をあげておきましたので、事前に読んで参加されると良いでしょう。

講演2

ゼロからはじめたRDA紀行

講演：村上 遥氏

(東京外国語大学附属図書館)

論文：

- ・北米図書館でのRDA実践に関する調査報告. カレントアウェアネス-E No. 245, 2013.9.26

AACR (Anglo-American Cataloging Rules) の改訂がAACR3にならなかった理由がいくつかあるようです。それがRDAの特徴となっています。①インターネットの時代にあつて、他のコミュニティとも協力し、かつ国際的なルールであること、②カード目録のためのCataloging Rulesから脱却し、コンピュータシステムをベースにすることで、色々な見せ方が可能になる、③対象が増える度に章を追加するのではな

く、多様なメディアに対応できる、等といったことです。

いわば、目録規則が「発想の転換」をしてきたわけですね。北米の図書館ではどう受け止められているのでしょうか。また、これを日本の大学図書館も無視することはできません。IAALで東京、福岡、大阪、札幌でRDA講習会を実施し、のべ約270名の参加がありました。今回は研修分科会の皆さんのためにお話しいただきます。乞うご期待！

Time table

13:00-14:30	講演1：RDAにみるこれからの図書館像 / 蟹瀬智弘氏 質疑応答
14:30-14:45	ティーブレイク
14:45-16:15	講演2：ゼロからはじめたRDA紀行 / 村上遥氏 質疑応答
16:15-16:30	12月研究発表会打合せ・事務連絡
16:30-17:00	図書館見学 (早稲田大学中央図書館)

早稲田大学図書館の見学をさせていただけることになりました。2グループに分かれて、館内をご説明いただきます。

課題について

共同製作の分筆が今回の課題です。第5回～第6回の研修分科会の中で、一緒にひとつのものを作り上げていくことが目的です。(2012年研修分科会で作成した「こんなにあった！図書館間協力：今昔」を別途ファイルでお送りします。)

第4回(9/26)の中間発表のプレゼンで、多くの方がキーワードとしてあげていたこれからの図書館から、2013研修分科会共同製作のテーマを「電子資料と向き合う」とします。(冊子のタイトルは皆さんに考えてもらいます。)その中を「電子ジャーナル」「電子ブック」「ER提供・管理システム」「電子図書館」で26項目をたてま

すので、1人1項目を調べて執筆してください。項目の分担と掲載事項は、別紙Excelにまとめます。(分担は個人交渉で替えても構いません。)

ファイル形式/ファイル名

WordでA4に10ポイント、横書き、1枚以内に収めてください。

ファイル名は「2013研修分科会共同製作(〇〇大・氏名)」

提出方法

メールリストにお送りください。完成したものは、図書館員のためのリポジトリにアップする予定です。

提出期限

開催の1週間前(11/1)とします。

次回開催予定

12月5日(木) 明治学院大学にて、いよいよ最終回...

同志社大学井上真琴氏に、情報リテラシーとラーニングコモンズのテーマでご講演をお願いしています。

その1週間後12月12日は研究発表会です。前半は共同製作資料作成と、発表会の準備をしましょう。

最終回ですし、12月5日は終了後に忘年会をしたいと思っております。幹事さん、募集します。